

人類働態学会 19期 第4回理事会

日時：2007年1月13日(土) 10:00~12:00

場所：筑波大学教育開発国際協力研究センター東京分室 E157

出席者(敬称略)：片岡洵子 酒井一博 小島龍平、竹内由利子、中田英雄
平野和彦、堀野定雄、松村秋芳、松田文子、水野有希

- 配布資料：資料1 報告確認事項
資料2 理事運営、活動スケジュール
資料3 編集委員会の方針コメント
資料4 会費請求用紙
資料5 第42回全国大会の骨子

報告と確認

1. 会報サポート

- ・会報予算を3号分計上しており、3号目を発行する方向で取り組んでいる。
- ・会報には会員の参加が不可欠である。大会の抄録、関連シンポジウムや研究会、全国大会と地方会の紹介や報告などをはじめ、働態学にまつわる研究や実践の成果などについて会員からの積極的な投稿を期待したい。
- ・松村理事はJHEの編集も担当しているため、会報のメインサポーターから外れてサポーター(編集委員)となり、新たにメインサポーター(副編集長)1名とサポーター1名を加えた4名体制にする予定である。関東圏を中心にサポートメンバーを推薦し、会長から声かけをしてもらう予定である。

2. 会費納入率向上へ向けた取組み

- ・過年度分の会費請求に関する用紙を作成した。
- ・今年度は通常通りの納入をお願いする。今年度末までに未納の場合は、会費請求の用紙を同封する予定。

3. 2007年度(第42回)全国大会(大会長久宗周二氏)

- ・現在のところ、実行委員会や事務局などの組織がないが、現地での協力体制は整っている。インフラは整備できているので、他の部分は理事会が協力するようにしたい。
- ・理事会からの支援として、服部昭氏と岸田理事を全国大会のアドバイザーに推薦する。
- ・学会本部として「共生シンポジウム」の企画を要請するならば、早めの連絡が必要。また、シンポジウムの話題提供者には学会員を加えた方がよいという意見があり、大会長に伝える。

4) 活動報告

JHE

- ・年末に34巻を発行した。現在、12月に3本、1月に3本の計6本の英文論文が新たに投稿されている。2007年3月くらいに35巻、2007年の半ばくらいに36巻を発行する計画で、作業をすすめている。
- ・論文の別刷り代は、50部までは無料であるが、それ以上の場合は現行の規定に従って徴収するこ

とを確認した。たとえば、10頁の論文の場合50部単位で3万円となる。

- ・査読者は、当面、ボランティアベースで行い、謝礼は支払わない。

国際交流

- ・2007年1月11日に David Caple I E A会長との研究交流会ならびに井谷理事の I L O局長 (Department of Labour Protection) 就任祝いの会を行った。出席者は36名で盛況であった。
- ・研究交流会においては、長谷川徹也氏と、松村理事が報告を行った。会報に研究交流会の報告を掲載する予定である。

共生シンポジウム

- ・現在、第3回共生シンポジウムの内容を J H E に掲載する準備をすすめている。

働態研究の方法

- ・電子媒体を活用した「働態研究の方法」刊行の骨子が固まった。
- ・原稿の1次締切を6月10日とし、当面、60編を目標とする。1編は4頁、デライトとまとめを300字とすること以外は、フリーとする。
- ・働態研究の方法に投稿する場合、連名者に会員が1名いればよいこととする。

2008年度(第43回)全国大会

- ・八戸の次の大会は沖縄の近藤功行先生(沖縄キリスト教学院大学)にお願いする

審議事項

1. 名誉会員について

- ・学会に功績のあった会員を名誉会員へ推薦すべきとの意見があった。そのためには早急に名誉会員へ推薦するガイドラインの制定が必要である。4役会議で原案を検討することとした。

2. その他の事項

- ・研究推進の活動の一環として、理事会による自己評価を行ったらどうかとの提案があった。年度計画があるので理事会として自己評価をし、次年度の方針を立てる習慣をつけることが趣旨である。
- ・理事会と会員との連携をいっそう密にするためにも学術的な活動実績、社会貢献、コストパフォーマンス、活動のクオリティーと量など、つまり、P D C A サイクルを回すプロセスを会員へ公開することが重要である。
- ・次回に具体案を再度提案し、検討を続けることとした。形式的な運用にならないようにとの注文があった。

次回の理事会は、3月31日(土) 10:00~12:00

以上